審査員のご紹介・選評

Profile

東京生まれ。日本の神話や伝承をいかしたファンタジー読物や絵本を数多く発表。『クヌギ林のザワザワ荘』で日本児童文学者協会新人賞他、「小さなスズナ姫」シリーズで新美南吉児童文学賞、『盆まねき』で野間児童文芸賞等を多数受賞している。他の作品に「菜の子先生」シリーズ、絵本『まゆとおに』など。

富安 陽子（とみやす ようこ）

童話作家

十枚という制限の中で優れた物語を創り出すという課題は決して簡単なことではありません。ともすれば予定調和のパターンに陥り、どこかで見た様な物語をなぞらえてしまっている作品も見かけます。そんな時にはもう一度、面白いとはどういうことなのか、自分に問い直してほしいのです。この物語には人の心に響く何かがあるだろうか？人の心に迫る何かを持っているだろうか？と――。もちろん、絵本も同じです。子どもたちが心踊らすような、新しい作品が生み出されますように！ファイト!!

Profile

岡山市生まれ。現在は長野県大町市に在住。『季節風』同人。『たんばたろう』で毎日童話新人賞、『京のかざぐるま』で日本児童文学者協会賞、『なまくら』で野間児童文芸賞を受賞。主な作品に『風の海峡』上下巻、『すし食いねえ』『はっけよい！雷電』『小説鶴彬』『風雪のペン』などがある。

吉橋 通夫（よしはし みちお）

児童文学作家

審査員が評価する時点では、作者名は分かりません。各賞の決定後に判明します。今回の優秀賞全員が、これまでの佳作を受賞された経験のある人ばかりでした。

ぼくは「佳作と優秀賞は紙一重」と言い続けてきました。佳作の人は、もう少しで優秀賞へ手が届くのです。本になる大賞も遠くはありません。どうかあきらめずに挑戦を続けて下さい。そして、日本の児童文学界に一石を投じるような作品を！

Profile

日本児童文学の研究者。立教大学文学部日本文学科卒。同大学院修了。宮城教育大学助教授等をへて、現在、武蔵野大学名誉教授。日本児童文学者協会評議員も務める。『現代児童文学の語るもの』（NHKブックス）、『物語もっと深読み教室』（岩波ジュニア新書）など著書・編著多数。

宮川 健郎（みやかわ たけお）

（一財）大阪国際児童文学振興財団 理事長

唐くんがふるさとの詩を暗唱すると、それは音楽です。「春風の魔法使い」は、花の香りの風が吹いてくるような作品になりました。「仲直し」には、急に雪が降ってきて、「雪エレベーター」ができた一月の冷たい空気が描かれています。作品に固有の「空気」にふれることが、童話を読む何よりの喜びです。「本当の名前」には、「ぼく」が猫をたずねて、はじめてインターホンを押した日の暑さが感じられます。「君のいる場所」からは、オカヤドカリが恋しがる海のにおいがしてきます。

Profile

新潟県生まれ。色鉛筆を使った細やかであたたかい画風の絵を数多く発表。主な絵本作品に、『ごんぎつね』『手ぶくろを買いに』『猫の事務所』（偕成社）、『おかあさんの目』（あかね書房）、「ころわんシリーズ」（ひさかたチャイルド）、画集に『雲の信号』（偕成社）などがある。

黒井 健（くろい けん）

絵本画家

応募された作品の読者になって見ながら、「おっ！」とか「えっ！」とか「おおー！」「あれー？」などと思いながら読ませてもらいます。

1「おっ！」というのは、これは面白そうだぞということです。

2「えっ！」は、意外性です。

3「おおーっ！」は、凄いぞーです。

4「あれー？」と言うのは、疑問とかショボリです。

上位作品はそれぞれ絵の完成度を持ち、1～3の印象を備えています。

只、一冊の本を最後までページを捲らせることは容易ではなく、ストーリーに無理があったり、構図の変化に乏しかったりして評価が下がります。次の応募作品に期待します。

Profile

愛知県生まれ。あたたかい線でユーモラスな動物たちが登場する絵本を数多く発表。主な作品に、『どっちからよんでも』（絵本館）、『ワニぼうのこいのぼり』（文溪堂）、『うし』（アリス館）、『よいこはもうねるじかん』（BL出版）、『オレ・ダレ』『ブービーとすべりだい』『ふたりのナマケモノ』（いずれも講談社）などがある。

高畠 純（たかばたけ じゅん）

絵本作家

まさに絵の表現はさまざま。静かな絵、愉快な絵、デッサン力を生かした絵など。いずれにしても更に魅力あるものにするには、やはりその内容です。皆さんが、いや僕も、それが一番悩むところではないでしょうか。切り口は良くても、途中つまずいたり、結末が弱かったり……。今回、上位に入った作品にはそれぞれに独特感がありました。次のページをめくりたくなる構成も。絵と言葉で読者をひきつける展開、なるほどと思わせるアイデア、そんな絵本がいいね。

Profile

同社は、よりクリーンで安全、インクルーシブな社会の実現を目指す長期ビジョン「Nissan Ambition 2030」のもと、社会貢献活動に取り組む。次代を担う子どもたちへの支援は、同社が社会貢献活動を通じて一貫して取り組んでいるテーマであり、1984年のグランプリ創設以来、協賛を続けている。

内田 誠（うちだ まこと）

日産自動車株式会社
代表執行役社長兼最高経営責任者

本グランプリは、日産自動車が取り組む社会貢献活動の中で最も長い歴史を持つ活動です。41年目を迎えた今回も、全国からたくさんの素晴らしい作品が寄せられ、大変喜ばしく思います。ご応募いただいた皆さま、グランプリ実施にご尽力いただいた関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

良い本との出会いは子どもたちの世界を広げ、さまざまな角度からものを見ることができる力を養ってくれます。今後も皆さまのご協力を賜りながら、このグランプリを大切に育てて参ります。